

1 題材 「目指せぬい物名人！」

2 指導観

○ 子どもたちを取り巻く社会は、物質面でも情報面でも豊かで、便利な生活となっている。最近では被服の種類も多く出回っており、簡単に欲しい物を入手することができる。そのため、ほころんだり少し不都合なことがあったりすると、新しい物を揃えるなど、不都合な部分を繕ったりつぎたしたりして物を大切に使うという傾向が薄れており、実生活で、縫うという経験がない。また、安価で大量生産されている物の影響により、いいものを長く着るという感覚が薄れ、機能性よりも見た目や新しい物を重視する傾向がある。このことから自分の衣生活を見直し、衣服への関心を高め、自ら考え判断できる力が必要不可欠になってくると考える。

本題材では、ネームプレート作りを通して、物を作る楽しさや作った物を生活に役立てる喜びを味わうことをねらうと共に、裁縫道具の安全な取り扱い方を理解すること、「玉留め」「玉結び」「ぬいとり」「並縫い」「ボタン付け」などの基本的な製作技能を身に付けることをねらいとしている。学習内容としては、製作計画、手縫いによる目的に応じた簡単な縫い方、製作に必要な用具の安全な取り扱い方などがある。このような学習を通して、製作することの楽しさや喜びを感じ、学校で学んだことを家族の一員として、家庭で実践することは意義がある。

○ 5年生の児童にとって家庭科は初めて学習する教科であり、家庭科の授業に対する期待が大きい。事前に衣生活に関する事前調査を行ったところ「手縫いで小物などを作ったことがありますか。」という質問に対し40%の児童が作ったことがあると答えている。また、「調理や製作など生活に必要な力を付けるために家庭科の学習は役立つと思いますか。」という質問に対し、100%児童が役立つと答えており、家庭科の学習は大切だと考えていることが分かる。「家庭科の学習で自分で考えたり工夫したりすることは好きですか。」は84%「家庭科の学習に興味を持ったことについてもっと調べてみたいですか。」は84%であり、家庭科の学習は大切だと感じてはいるものの、自分で考え工夫することや自分から進んで調べることは十分にできていない。そこで、自分たちが主体的に製作する楽しさや自分なりに考え、工夫することのよさを感じさせたい。

○ 指導にあたっては、一人実習を取り入れ、「玉留め」「玉結び」「ぬいとり」「並縫い」「ボタン付け」等、基礎的な製作技能を着実に身に付けさせながら、一人で出来た達成感や友達と協力する喜びを感じさせたい。そこでまず、事前にとった衣生活アンケートから、裁縫についての知識がほとんどないことや製作における経験不足に気づかせる。次に、「玉どめ」「玉結び」「ぬいとり」「なみぬい」「ボタン付け」の一人実習を行い、必要な基礎的な調理技能を身に付けさせる。ここでは、玉結び競争や玉どめコンテストなどを行い楽しく活動させると共に、なぜ糸通しが早いのか、どうしたら玉どめが綺麗にできるのかなど自分で考え、どのようにすればいいか考えさせる時間も十分に取りたい。その際、縫い方名人ビデオや手順カードを用意して安心して一人実習に取り組めるようにしておく。また、三つ星カードを用意し、自分の基礎的な製作技能を把握し自己評価ができるようにしておく。そして、手縫いの基礎的な縫い方を教え終わった際には、小テストを行い、基礎的な製作技能、知識の習得を目指す。さらに今まで学校で習得した基礎的な技能を生かし、ネームプレート作りの製作計画、製作実習を行う。計画の場面では、自分の製作技能に合わせて工夫させる。最後に、これまでの製作実習を生かし、製作に役立つ小物づくりの製作計画を立てさせ、家庭実践に取り組ませる。

3 目標

- 生活に役立つ物の製作に関心をもち、製作に必要な材料や用具などを準備し、手縫いで楽しく製作しようとしている。
- 製作する物や製作計画、手縫いによる目的に応じた簡単な縫い方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。
- 手縫いに関する簡単な技能（玉結び、玉どめ、ぬいとり、なみぬい、ボタン付け）を身につけ、目的に応じた簡単な縫い方ができる。製作に必要な用具を安全に取り扱うことができる。
- 裁縫用具の名前や安全な取り扱い方、手縫いによる簡単な縫い方、ボタンの付け方が分かる。

4 計画 (9時間+課外)

関：関心・意欲・態度 創：創意・工夫 技：生活の技能 知：知識・理解

段階	配時	学習活動・内容	手立てと研究に関する手立て	評価規準〈評価方法〉
気付く	1	1 自分の衣生活を振り返り、学習の課題をもつ。 ・身近な布製品の働き ・基本的な裁縫用具の使い方 ・糸通し	○ 裁縫用具の拡大写真を用意し、視覚的に分かり易くしておく。 ○ 糸通し大会を行い、その中でどうしたら早く通せるか体験させ、考えさせることでコツをつかませる。	知：周りにはたくさんの布製品が使われていることに気付く。〈発言チェック〉 関：裁縫用具の種類や使い方について関心をもっている。〈発言チェック〉 知：製作に必要な用具の安全な取り扱いが分かる。〈学習プリントチェック〉
見通す	3	2 玉どめ、玉結びの方法を知り、練習をする。 ・玉どめ ・玉結び	○ 玉どめ・玉結びの「名人ビデオ」,「手順カード」を準備する。 ○ 玉どめ・玉結びを一度行った後に縫い方のアドバイスを友達同士で行い、再度取り組ませるようにする。 ○ 技能の基準がわかるようにするために三つ星カードを準備する。	技：玉どめ、玉結びができる。〈活動チェック・作品分析〉 知：玉どめ、玉結びの役目や方法が分かる。〈学習プリントチェック〉
	3	3 ボタンつけ・ぬい通りの方法を知り、練習をする。 ・ボタンつけ ・本返し縫い ・半返し縫い	○ ボタンつけ、ぬい通りの「名人ビデオ」,「手順カード」を準備する。 ○ ボタンつけ、ぬいとりを一度行った後に縫い方のアドバイスを友達同士で行い、再度取り組ませるようにする。 ○ 縫い方が比べられるように縫い方見本(ボタンつけ)を用意する。 ○ 技能の基準がわかるようにするために三つ星カードを準備する。	技：ボタンつけ、ぬいとりができる。〈活動チェック・作品分析〉 知：ボタンの役目やつけ方が分かる。〈学習プリントチェック〉
	4	4 なみ縫いの方法を知り、練習をする。 ・製作手順 ・なみ縫い	○ なみ縫いの「名人ビデオ」,「手順カード」を準備する。 ○ なみ縫いを一度行った後に縫い方のアドバイスを友達同士で行い、再度取り組ませるようにする。 ○ 縫い方が比べられるように縫い方見本(なみ縫い)を用意する。 ○ 技能の基準がわかるようにするために三つ星カードを準備する。 ○ 児童が目標をもつことができるようにオリジナルの布を準備する。	技：なみ縫いができる。〈活動チェック・作品分析〉 知：正しいなみ縫いの方法が分かる。〈学習プリントチェック〉
さぐる・まとめる	3	5 課題解決のための製作計画と製作実習をする。 (1)「ネームプレートづくり」の計画を立てる。 ・形、配色 ・製作手順 製作時間 (2)自分の計画に基づいた「ネームプレートづくり」の製作実習を行う。 ・縫い方(なみ縫い、ボタンつけ、ぬいとりなど) (3)製作実習の反省・評価を行う。 ・基本的な製作技能の見直し	○ 自分のネームプレートを作るといふ思いを高めるためにワークシートに作成前の思いを書き込ませる。 ○ 完成した物を予想しやすいように、ネームプレートの大きさをある程度示しておく。 ○ 技能の基準がわかるようにするために三つ星カードを準備する。 ○ 今まで学習してきたこうやってきたよカードを掲示し、思い出しやすくしておく。	創：手縫いで基礎的な技能を生かした「ネームプレートづくり」の計画を立てる。〈製作計画プリント分析〉 知：縫い方の種類や裁縫用具の安全な使用方を説明できる。〈小テスト分析〉 技：手順を考えて安全に、作品や用途に合わせた縫い方や材料の選択ができる。〈自己評価表・作品分析〉
生かす	2+課外	6 家庭実践のための製作計画と発表会を行う。 ・目的 便利さ ・好みのデザイン(色づかい、形など)・実物大の設計図 ・縫い方の組み合わせ(なみぬい、ぬいとり、ボタンつけ) ・自分なりの工夫 ○家庭実践を行う。 7 小物づくりの発表会を行う。 ・いいねカード	○ 自分一人で最後まで製作ができるようにするために、製作手順を書かせ、実物大のできあがり予想図を作らせる。 ○ 自分の思いを大切にするためにオンリーワンのポイントを書かせる。 ○ 自分の小物の工夫点を分かりやすく掲示させる。	創：製作実習の経験を生かし、用途に合わせた小物づくりの計画を工夫して立てる。〈学習プリント分析〉 関：これまでの学習を生かし製作を通してこれからの衣生活をよくしていこうとする。〈家庭実践レポート分析〉

(1) 本時の指導観

前時までには児童は「衣生活アンケート」により、製作に関する知識不足を感じ、身の回りで役に立っている布製品について考えたり、玉むすび、玉どめの方法を学習、練習をしたりしている。

本時では、製作に必要な用具を安全に取り扱い、手縫いに関する簡単な技能と技術(なみ縫い)を身につけ、目的に応じた簡単な縫い方ができることをねらいとする。そのためにまず、基本的ななみ縫いの方法を知り、本時のめあてを確認する。次に縫い方の確認を行う。その際、名人ビデオや手順カードを用意しておき、基本的な縫い方のポイントが分かるようにしておく。さらに製作実習の時間を十分に確保する。その際、教え合う活動を十分に取り入れる。最後にこうやったらできたよカードをまとめ、製作実習への意欲につなげる。最後にこうやったらできた方法を確認して本時のまとめを行い、次時は「ボタン付け」製作実習を行うことを知らせる。

(2) 主眼

〇なみ縫いの練習や友達のアドバイスの活動を通して、なみ縫いの特徴をつかみ、なみ縫いができる。

(3) 準備

- ①教師用の大きな針 ②毛糸 ③大きなフェルト ④縫い方の手本 ⑤手順カード ⑥縫い方名人ビデオ
- ⑦糸 ⑧針 ⑨練習布 ⑩布 ⑪三つ星カード ⑫自己評価表

(4) 過程

学 習 活 動 ・ 内 容	資料・数	手 だ て	形態	配時(分)
1 前時のふり返りを行い、めあての確認を行う。 ・玉どめ ・玉結び <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">なみぬいの名人を目指そう。</div>		〇できたよカードで前時のことを想起させ、うまくいくこつを思い出させる。	全体	1
2 なみ縫いの練習をする。 (1)なみ縫いの方法を確認し、縫ってみる。 ・縫い方の手順 ・用具の安全な取り扱い	①②③ ④⑤⑥ ⑦⑧⑨	〇なみ縫いの方法が分かるように、大きな針と糸を使って演示する。 〇縫い方のポイントが視覚的に分かるように名人ビデオを見せる。 〇縫い方が理解できない児童に対しては、名人ビデオや手順カードを使って繰り返し見ることができるようしておく。	全体 個	4 10
(2)上手に縫う方法を交流しあう。 ・名人の技 ・めざすなみ縫い (3)再度練習する。		〇縫い方の手本(なみ縫い)と自分のなみ縫いを比較させ、目指すなみ縫いのできばえや方法に気づかせる。	全体 個	10 10
3 なみ縫いの名人に挑戦し、三つ星カードに記入する。	⑩⑪	〇三つ星カードを使って、めざす縫い方の基準を明らかにし、目標を持たせる。	個	8
4 本時のまとめをし、次時の確認をする。 ・名人の技 ・めざすなみ縫い ・自己評価表	⑫	◇なみ縫いの練習や友達のアドバイスの活動を通して、なみ縫いの特徴をつかみ、なみ縫いをすることができたか。 <発言チェック, 練習布・自己評価表分析>	全体	2